

# いっぽ だより

はじめのいっぽ弥生  
平成27年8月

夏休み・お盆が過ぎ、あっという間に秋の気配が感じられる季節となりました。

札幌の畑、岩内の畑、そしていっぽの畑には、太陽の光、雨水などの自然の恵みをたっぷり受けた枝豆、イモ、トウキビ、カボチャなどがすくすくと成長しています。

さ～て、9月は実りの秋。新鮮な野菜をたっぷり食べて、子ども達がより健やかな体、豊かな心を育てていけるように…と考えています。

## 9月 予定表

日	いっぽ行事等	時間・備考
9/3 (木)	帯広市 養護教員 視察 (7名)	午後
9/5 (土)	映画鑑賞『みんなの学校』 (幕別町百年記念ホールにて)	10:00～
9/12 (土)	畑収穫 (イモ・トウキビなど)	午前中
9/15 (火)	スタッフ会議	10:00～12:00
9/16 (水)	子ども地域生活支援会議 コープベルデにて料理教室	10:00～ 18:30～
9/17 (木)	入江明美さん講演会『人を信じる力』	19:20～
9/19 (土)	簡単クッキング コロケ作り	午前中
9/27 (日)～ 9/29 (火)	金沢市 佛子園 (ぶっしえん) 視察 (伊藤理事、石橋、田子 参加予定)	
9/30 (水)	親子でいっぽ	10:00～ 幼児の保護者対象

## お知らせ

- ・ 9月から新たに札幌南小学校やひまわり幼稚園などから、新しいお友達がやってくるので、お楽しみに～♪
- ・ 年間行事では8月29日に佐々木浩治先生の講演会を予定しておりましたが、現在日程を調整中となっておりますので、ご了承ください。

## 🌸 いっぽ夏まつりの感動と感謝

流しそうめんを食べたある土曜日、「みんなにも食べてもらいたいね」という子ども達の言葉をきっかけに積極的に意見が出され、「いっぽ夏まつり」が計画されたことは前回お伝えしたところですが、そのみんなの思いが集結して当日を迎え、無事に終えることができ、感動と感謝でいっぱいです。



準備中、2歳から14歳まで一人ひとりが描き続け、1か月かけて出来上がった子どもの旗。何百枚というその旗は、当日いっぽ広場に飾られ、みんなを応援するかのように風にヒラヒラと揺れていました。



幼児の大好きな『だるまさん』の絵本を題材に、おみこしも作りました。「事故なく、楽しいおまつりになりますように」とお願いしながら♪ワッショイ、ワッショイ♪ニコニコだるまさんが、会場の雰囲気の大いに盛り上げてくれました。(目には見えない力でみんなを守ってくれているような気がしてたまらず、今もいっぽの部屋に飾っています)



お化け屋敷のセット作り、屋台やかき氷機の調達、景品の準備のほか、舞台裏でひたすらそうめんをゆで続けてくれた人、落ちこぼれたそうめんをていねいに拾ってくれる人、一日目の午後、暴風雨にみまわれたとき、子どもの旗やテントを守ろうと、体を張って頑張っていた人もいます。

一人ひとりの力はほんのわずかなものだけれど、子どもたちを始め、ボランティアの方やスタッフみんなが力を合わせて成し遂げた最高の充実感は、みんなの宝物になっていると確信しています。本当にありがとうございました！

## 夏休みの思い出



7月25日（月）、いっぼの小学生代表として、5人がジャンボ書道教室に参加。全身の力を込め、“無”の境地で精神統一！魂をみがき、力作を書き上げていました。

また、長期休みは異年齢交流の貴重なチャンス！普段は会うことの無い幼児と小学生が、仲良く遊びを共有していました。



暑いあつーい日々、機関庫川ででザリガニやウグイを見つけた感動、河川敷で足を水につけるだけでも気持ち良かったね！楽しい楽しい思い出、本当にありがとう！



平日は帯広市に勤め、土曜日にいっぼへ来ている恵子先生の尽力で、このいっぼ広場に消防車が来てくれました。消防服を着用しての放水訓練は、とても貴重な体験となりました。



念願かなって、札内川にて初めての炊事遠足を実施！まずはヨモギをいぶして虫よけ対策をし、大きな石を運んでかまどを三つ作り、100年以上前のお釜を使ってお米を炊きました。出来立ておこげの味は、格別！野菜たっぷりのカレーに白菜の昆布漬け、網の上で焼いたウインナーにみずみずしいスイカ。何もかも新鮮でワクワク、楽しい時間を過ごす中で、「工夫して生きる力」が、ちゃんと育まれているなあと実感しました。

 5分間の『論語』タイム

■本當の魅力とはどういふことだろうか？

子曰く、朽木きゆうぼくは雕ほるべかつざるなり。

ふんどかきぬ  
糞土かきの牆ぬは朽るべかつざるなり。

(公冶長第五)

根性の腐った人間は直せない。

孔子がいおつとしているのは、「人間も同じだ。」

根性の腐った者をいくら注意したところで、

どうしようもないよ」

これは人としての正しい道を知らずに、自由奔放

我がまま勝手に育子できあがった人間のこと。

人間とその台よをいさいとぎからしつかり築き上げていかなないと、朽木や糞土よのようになってしまう。

子ども達が「朽木」や「糞土」にならないよう、健全な生活経験を積み重ねていかななくては…。

正座をすると、自然に背筋がまっすぐ伸びて元気な声が出ます。部屋中に響きわたる「子曰く（し いわく）—」の声。部屋の空気が、清々しく凜としています。

江戸時代の人々は、『寺子屋』という場所で、『論語』を始めとする本を使い、「人として大切なことは何だろうか？」ということがたくさん勉強していたそうです。そうした人たちが、今の平和な日本を作ってきてくれたわけです。

7月からトシ先生の指導のもとに始まったいっぽの『論語』タイムですが、「正座をして話を聞き、先生の言葉を繰り返す」という一日たった5分の習慣が、二か月足らずで、すっかり子ども達の心と体に習慣としてしみこんでいます。

こうした力は、将来社会に出た時、確実に役に立つことです。良いことを続ける大切さと、素晴らしさを忘れず、今後も継続していきたいと思えます。

9月3日の午後、帯広市の養護教員の方々が当所へ視察に来られる時には、その様子をビデオにて紹介しようと思っています。

(かげの声)：65歳の石橋は、初めての論語に「どんな意味なの？」とつい考え込んでしまふけれど、お経と同じように、意味が完全に分からなくても、唱えることで心に大切な何かがいしみこんで来るなあ…と感じています。